

福島県環境基本計画の施策の達成状況

施策の体系と展開

施策の体系

施策の展開

達成状況	
◎	既に平成22年度の目標を達成している
○	目標は達成していないが概ね順調に推移している
△	目標を達成しておらず横ばい傾向にある
×	目標を達成しておらず後退傾向にある

1 自然と人との共生

- (1) 多様な自然環境の保全
- (2) 生物多様性の保全
- (3) 自然との豊かなふれあいの推進
- (4) 良好な景観の保全と創造
- (5) 尾瀬地区及び裏磐梯地区の自然環境保全

2 環境への負荷の少ない循環型社会の形成

- (1) **ごみゼロ社会形成の推進**
- (2) 環境と調和した事業活動の展開
- (3) **資源・エネルギーの有効利用**
- (4) ダイオキシン類等化学物質対策の推進
- (5) 大気、水、土壌等の保全対策の推進
- (6) **猪苗代湖及び裏磐梯湖沼の水環境保全**
- (7) 環境負荷の少ない交通への取組み
- (8) 原子力発電所及び周辺地域の安全確保

3 地球環境保全への積極的な取組み

- (1) **地球温暖化対策の推進**
- (2) オゾン層保護・酸性雨対策の推進
- (3) アジェンダ21ふくしまの推進

4 環境教育・学習の推進

- (1) 多様な場における環境学習・学習の充実
- (2) 学校、地域等における指導者の育成
- (3) 環境教育、学習基盤の充実

5 参加と連携に基づく環境ネットワーク社会の構築

- (1) 各主体の自発的な活動の促進と連携
- (2) 環境に配慮した消費活動の促進
- (3) 環境マネジメント等の普及
- (4) 県の事業者・消費者としての環境保全に向けた取組みの推進
- (5) 県域を越えたネットワークによる取組みの推進
- (6) 国際的な取組みの推進

6 共通的・基礎的な施策の推進

- (1) 環境配慮の推進・普及
- (2) 環境と調和のとれた土地利用の推進
- (3) 環境に配慮したゆとりある生活空間の形成
- (4) 総合的な調査研究、監視体制の整備
- (5) 環境保全に関する情報の収集と提供
- (6) 各種政策的手法の活用
- (7) 環境汚染防止体制

指標数	◎	○	△	×
14	7	4	3	0
6	4	1	1	
1		1		
3		1	2	
2	2			
2	1	1		
37	15	7	8	7
9	1	4	3	1
4	3		1	
3	2			1
3	1		2	
10	6	2		2
6	1		2	3
2	1	1		
0				
1	0	0	0	1
1				1
0				
0				
4	0	3	1	0
3		2	1	
1		1		
0				
5	1	3	1	0
1		1		
1			1	
2	1	1		
1		1		
0				
0				
合計				
61	23	17	13	8
割合%	38	28	21	13

目標区分	
↗	現況値を上げていく
→	現況値程度を維持していく
↘	現況値を下げていく
↓	現況の上昇傾向に歯止めをかける
↑	現況の下降傾向に歯止めをかける

環境指標の進捗率の算出について

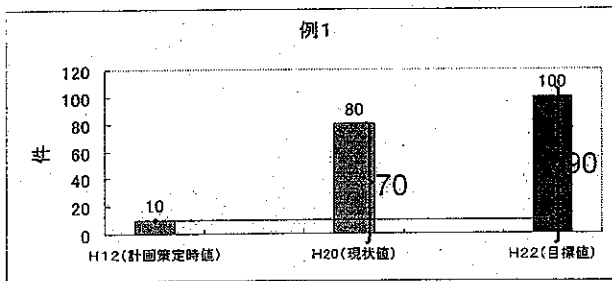
生活環境総務課

環境指標の達成状況を計る目安として、次の考え方により、環境指標の進捗率を算出等した。

1 積極的に値を伸ばすこと又は下げることが目標の場合

環境基本計画を策定した時点（平成12年度）での値を基準とし、目標値に対する現状値の進捗率を算出する。

$$\text{進捗率 (\%)} = (\text{現状値} - \text{計画策定時値}) \div (\text{目標値} - \text{計画策定時値}) \times 100$$



例1：

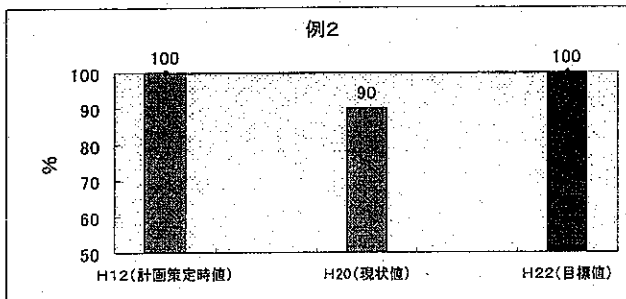
$$\text{進捗率} = (80 - 10) \div (100 - 10) \times 100$$

0

$$= 70 \div 90 \times 100 = 77.8\%$$

2 現状維持が目標の場合

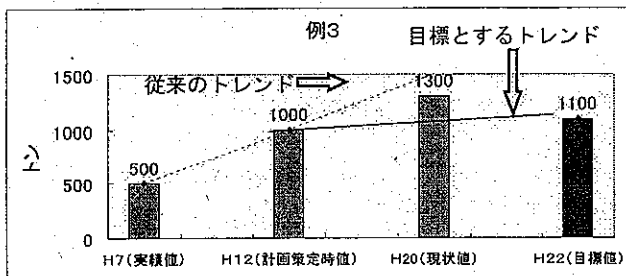
環境基本計画を策定した時点での値を維持している場合は100%、維持していない場合は-（マイナス）とする。



例2：進捗率=-（マイナス）

3 トレンドに歯止めを掛けようとする目標の場合

現状値が、環境基本計画を策定した時点での値と目標値の回帰直線の範囲内である場合は100%、範囲を超えている場合は-（マイナス）とする。



例3：進捗率=-（マイナス）

福島県環境基本計画の施策の達成状況等

生活環境総務課

1 自然と人との共生

(1) 多様な自然環境の保全

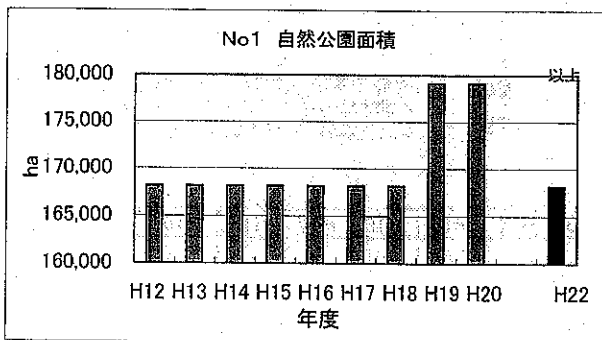
施策の方向

- ◇豊かな森や清らかな川などの本県の優れた自然環境を保全します。
- ◇里山や水辺地などの身近な自然環境を保全します。
- ◇森林や農地の持つ多面的な機能の確保を図ります。

- ① 自然保護思想の普及啓発
- ② すぐれた自然環境の保全
- ③ 里地里山など身近な自然環境の保全
- ④ 水と緑の保全と創造

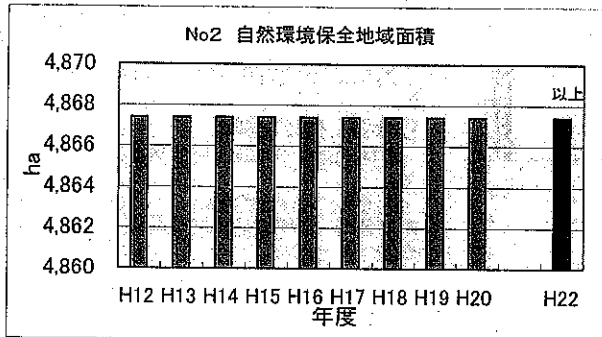
環境指標

No1	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
自然公園面積	168,169.8	168,169.8	168,169.8	168,169.8	168,169.8	168,169.8	168,169.8	179,123.8	179,123.8	-	168,169.8以上	◎	→



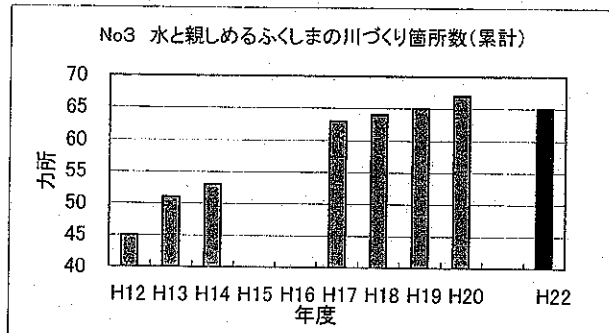
- 目標の達成状況について
平成20年度末の進捗率 106.5%
- 主な取組み実績
・尾瀬国立公園の誕生(平成19年8月30日)
・自然公園ふれあい全国大会の開催(平成20年8月30~31日)
- 今後に向けた課題
自然公園運営や、野生動植物の保護管理は自然保護に対する県民の意識の高まりの一方、対象が広く財源確保も含めて検討していく必要がある。

No2	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
自然環境保全地域面積	4,867.4	4,867.4	4,867.4	4,867.4	4,867.4	4,867.4	4,867.4	4,867.4	4,867.4	-	4,867.4以上	◎	→



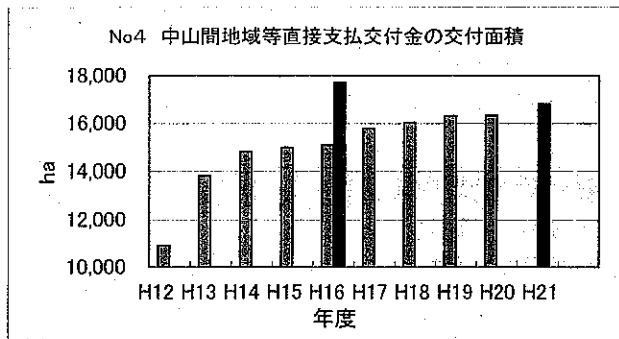
- 目標の達成状況について
平成20年度末の進捗率 100%
- 主な取組み実績
標識等整備
- 今後に向けた課題
自然公園運営や、野生動植物の保護管理は自然保護に対する県民の意識の高まりの一方、整備対象が広いので、財源確保も含めて国、県、市町村の役割分担を検討していく必要がある。

No3	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
水と親しめるふくしまの川づくり箇所数(累計)	45	51	53	-	-	63	64	65	67	-	65	◎	↗



- 目標の達成状況について
平成20年度末の進捗率 110%
- 主な取組み実績
魚道工、親水性護岸工等を施行し、動植物の生息環境に配慮した、親水性のある施設を整備した。
- 今後に向けた課題
工事の計画、実施にあたっては、野生動植物の生息・生育環境に配慮し、自然環境と調和した施設となるよう、事前調査・検討等を十分に行う。

No4	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
中山間地域等直接支払交付金の交付面積	10,907	13,817	14,804	14,976	15,071	15,779	16,035	16,317	16,321	-	-	○	↗
					17,700 (目標)					16,800			



○目標の達成状況について

平成20年度末の進捗率 91.9%

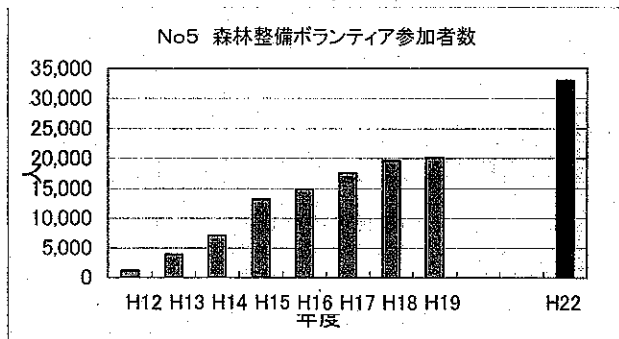
○主な取組み実績

各集落においては、農地や農道、水路の保全の他に、農地周辺林地の下刈りや景観形成作物作付けなど多面的機能を増進する取組みが展開されている。

○今後に向けた課題

集落協定参加者が高齢化しており、より前向きな多面的機能の増進を図る活動を牽引するリーダーが不足しつつある。また、小規模の集落協定などでは、協定の継続が危ぶまれる状況にある。

No5	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
森林整備ボランティア参加者数	1,113	3,836	7,084	13,216	14,853	17,544	19,651	20,135	-	-	33,000	△	↗



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 59.7%

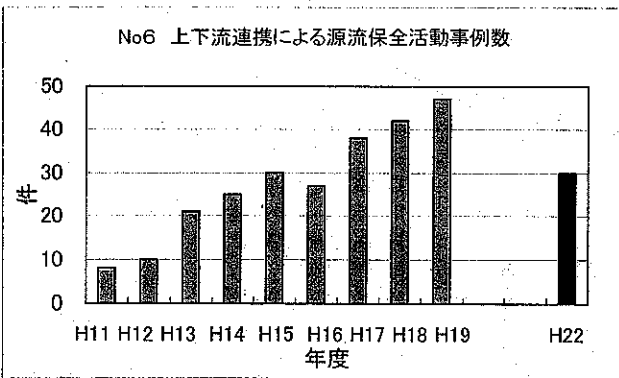
○主な取組み実績

平成18年度からは森林環境基金を活用し、県民の森林づくり活動への参加を支援する、森林ボランティアサポートセンターを開設するとともに、県内各地域で森林づくり活動を実施しているボランティア団体等の活動を支援した。

○今後に向けた課題

①参加者の固定化による参加者の伸び悩み②指導者の養成と確保③活動資金の確保④団体活動の継続を図るための固定フィールドの確保⑤企業による森林づくり活動の支援

No6	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
上下流連携による源流保全活動事例数	8	10	21	25	30	27	38	42	47	-	-	30	◎	→



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 185%

○主な取組み実績

平成18年7月に「うつくしま『水との共生』プラン」を策定し、モデルとして夏井川流域を選定し、平成19年度には「夏井川流域行動計画」を策定した。

平成20年度には「きたかた清水ネットワーク」が結成され、地下水涵養実験「冬水田んぼ」が開始された。

○今後に向けた課題

夏井川流域での取組み成果を全県へ普及すること。各流域における課題等について行政と水環境活動団体等、水環境活動団体相互間で情報共有すること。

(2) 生物多様性の保全

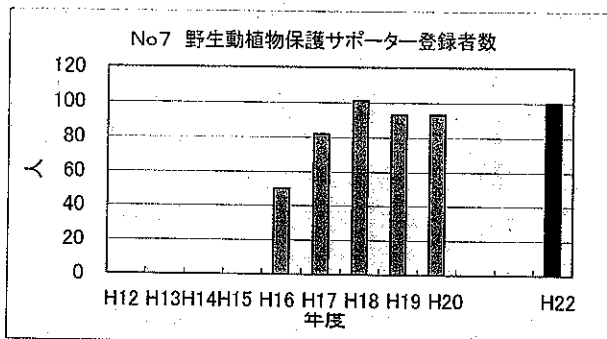
施策の方向

- ◇希少種を含む野生生物の保護対策を進め、本県の豊かな生態系を守ります。
- ◇あつれきを生じている野生生物や外来生物について適切な対策を進めます。

- ① 野生生物調査の実施
- ② 野生生物の保護・管理の推進
- ③ 外来種の移植・移入の回避

環境指標

No7	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H22(目標)	達成状況	目標区分
野生動植物保護サポーター登録者数	-	-	-	-	50	82	101	93	93	-	-	100	○	↗



○目標の達成状況について

平成20年度末の進捗率 93%

○主な取組み実績

サポーターから提供のあった希少野生動植物の生育、生息情報を公共工事部門等に提供することにより保護に活用している。

○今後に向けた課題

希少野生動植物の生育、生息情報提供活動の継続と、提供情報の一層の活用。

(3) 自然との豊かなふれあいの推進

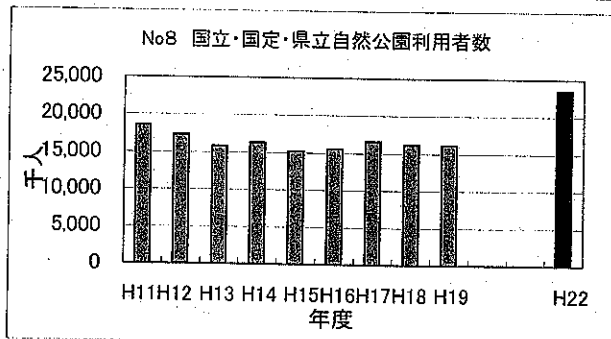
施策の方向

- ◇自然に学び、ふれあう場の整備や機会の充実を図ります。
- ◇河川等と一体となった親水性に富んだ水辺空間の整備を進めます。
- ◇都市公園の整備など、都市部の緑化を進めます。
- ◇自然保護活動を行う団体等との協力により、自然解説者の育成を図ります。

- ① 自然とのふれあいの場の整備
- ② 自然とのふれあい活動の推進
- ③ 人材の育成

環境指標

No8	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
国立・国定・県立自然公園利用者数	18,527	17,293	15,850	16,314	15,212	15,559	16,576	16,187	16,164	-	-	23,500	△	↗



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 -

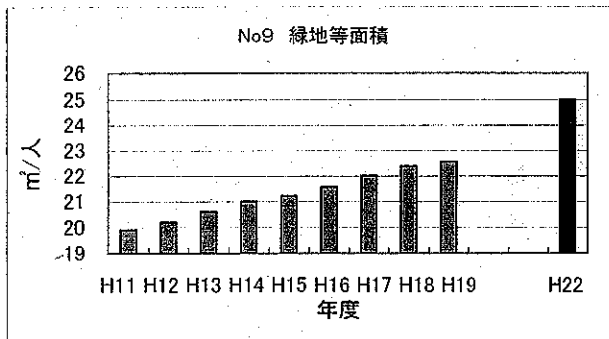
○主な取組み実績

エコツーリズムの推進
交通規制(尾瀬、雄国沼)

○今後に向けた課題

自然公園運営や、野生動植物の保護管理は自然保護に対する県民の意識の高まりの一方、整備対象が広いので、財源確保も含めて国、県、市町村の役割分担を検討していく必要がある。

No9	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
緑地等面積	19.91	20.20	20.60	21.00	21.23	21.57	22.02	22.39	22.57	-	-	25	△	↗

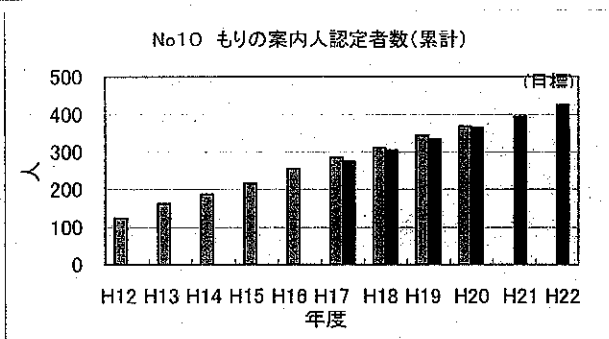


○目標の達成状況について
平成19年度末の進捗率 49.4%

○主な取り組み実績
県営公園の整備を進めるとともに、県内市町村も含め新たに都市公園276haを供給した。

○今後に向けた課題
県及び市町村の財政状況が厳しく、事業の重点化・選別化が進む中、都市公園整備の進捗鈍化が予測される。

No10	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
もりの案内人認定者数(累計)	124	163	187	216	254	285	311	343	368	-	-	○	↗
						274 (目標)	304	334	364	394	425		



○目標の達成状況について
平成20年度末の進捗率 81.1%

○主な取り組み実績
もりの案内人等指導要請事業等により、森林とのふれあいをとおして森林の役割や重要性を県民に広く伝えるボランティアの指導者「もりの案内人」を毎年約30名ずつ養成した。

○今後に向けた課題
もりの案内人の自発的な活動の支援や、資質の向上が求められている。

(4) 良好な景観の保全と創造

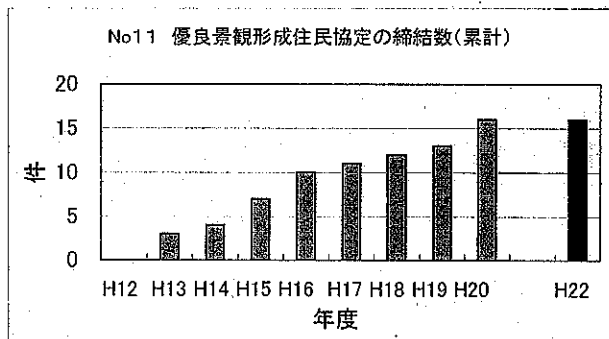
施策の方向

- ◇良好な景観を県民共有の財産として保全します。
- ◇地域の特性に応じた、優れた景観の創造に取り組みます。

- ① 届出制度の適切な運用
- ② 景観形成に関する支援等
- ③ 景観に配慮した公共事業等の実施

環境指標

No11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
優良景観形成住民協定の締結数(累計)	0	3	4	7	10	11	12	13	16	-	16	◎	↗

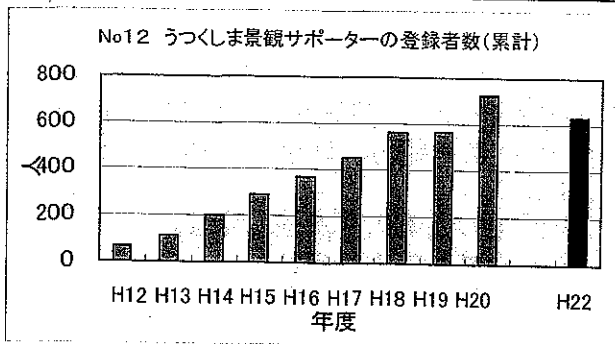


○目標の達成状況について
平成20年度末の進捗率 100%

○主な取り組み実績
優良景観形成住民協定締結のための地区の合意形成や既締結地区における取組みを支援するとともに、協定に基づき実施する修景措置に対する補助を実施した。

○今後に向けた課題
景観に対する地域住民のさらなる意識高揚。技術的助言や知識の普及啓発。

No12	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
うつくしま景観サポーターの登録者数(累計)	66	111	201	290	366	452	562	564	725	-	630	◎	↗



○目標の達成状況について

平成20年度末の進捗率 116.8%

○主な取組み実績

サポーター育成のために研修会を実施するとともに、サポーターによる提言活動を支援した。

○今後に向けた課題

景観に対する地域住民のさらなる意識高揚。技術的助言や知識の普及啓発。

(5) 尾瀬地区及び裏磐梯地区の自然環境保全

施策の方向

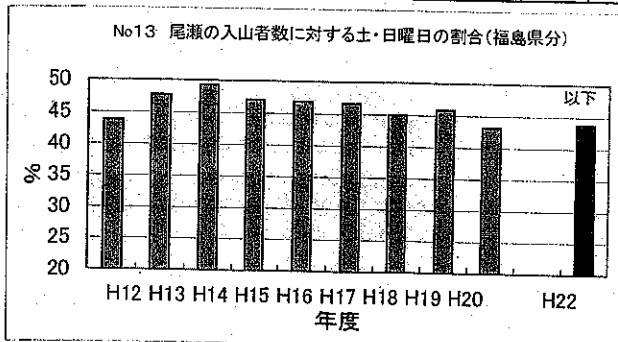
◇本州最大の高層湿原である尾瀬地区の貴重な自然環境を保全します。
 ◇裏磐梯地区の優れた自然環境を保全するとともに、自然との豊かなふれあいを推進します。

① 尾瀬地区の自然環境保全

② 裏磐梯地区の自然環境保全

環境指標

No13	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
尾瀬の入山者数に対する土・日曜日の割合(福島県分)	43.8	47.8	49.3	47.1	46.9	46.7	45.0	45.9	43.2	-	43.8以下	◎	→



○目標の達成状況について

平成20年度末の進捗率 100%

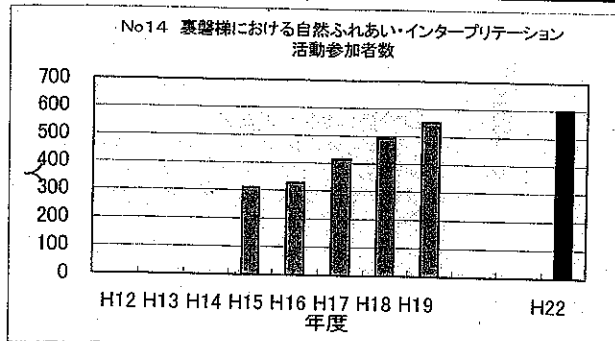
○主な取組み実績

ラジオ放送による平日利用の呼びかけなどの普及啓発活動の実施。

○今後に向けた課題

普及啓発の充実

No14	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
裏磐梯における自然ふれあい・インタープリテーション活動参加者数	-	-	-	311	328	415	493	552	-	-	600	○	↗



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 92%

○主な取組み実績

裏磐梯ビジターセンターを管理運営する協議会への負担金の支出。エコツーリズムリーダー研修会の実施。

○今後に向けた課題

裏磐梯ビジターセンターの運営については、さらに高度な情報提供や自然観察会の開催等が求められているため、財源確保も含めて、検討していく必要がある。

2 環境への負荷の少ない循環型社会の形成

(1) ごみゼロ社会形成の推進

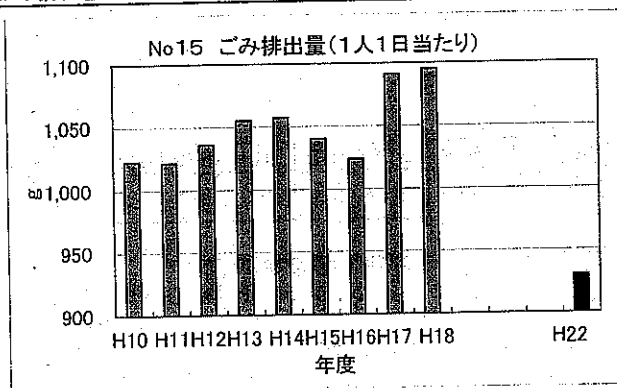
施策の方向

◇あらゆる分野でごみ減量化・リサイクルを推進し、“ごみゼロ社会”を目指します。
 ◇一人ひとりが廃棄物の減量化やリサイクルに取り組み、環境にやさしいライフスタイル、ビジネススタイルの実現を目指します。
 ◇一般廃棄物の効率的処理のために、ごみ処理の広域化を推進します。
 ◇廃棄物の適正処理を進めるとともに、不法投棄を防止します。

- ① 一人ひとりの実践活動の促進
- ② 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進
- ③ 廃棄物の適正処理の推進
- ④ ごみ処理広域化の推進
- ⑤ 不適正処理防止対策等の推進

環境指標

No15	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)
ごみ排出量(1人1日当たり)	1,023	1,022	1,036	1,055	1,057	1,040	1,024	1,091	1,095	-	-	-	930



○目標の達成状況について

平成18年度末の進捗率 -

達成状況	目標区分
×	↘

○主な取組み実績

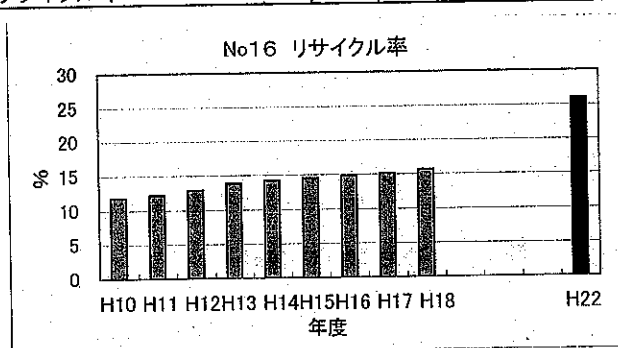
マイバックキャンペーン、ごみ減量化ポスターコンクール、「ごみ減量化・リサイクル」キャンペーン、キャラバン、「ごみ減量化コンクール」の実施。

○今後に向けた課題

一般家庭のごみ減量化については3Rの取組みやマイバッグの取組みの継続的な普及・啓発が重要であるとともに、ごみ処理の有料化もごみ減量化のための方策の一つである。また、事業系一般廃棄物の減量化推進のためには、市町村や一部事務組合をとした効率的な指導が必要である。

※環境省が平成17年度からごみ総排出量の定義を変えたため、平成17年度以降は新しい定義に基づき算定した値となっている。

No16	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)
リサイクル率	11.8	12.2	12.9	13.8	14.2	14.5	14.8	15.1	15.6	-	-	-	26



○目標の達成状況について

平成18年度末の進捗率 20.6%

達成状況	目標区分
△	↗

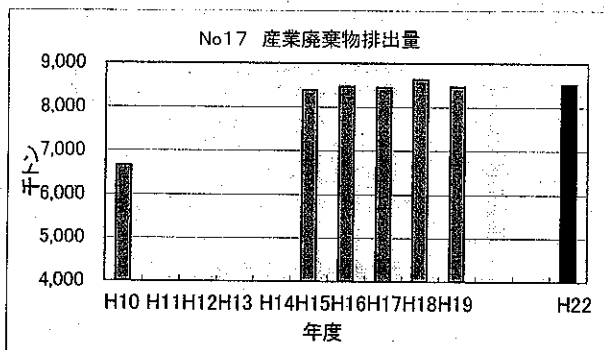
○主な取組み実績

市町村をとおして資源化物の分別、可燃ごみへの資源ごみの混入防止を呼びかけるとともに、市町村に対して資源ごみの分別収集の徹底を呼びかけた。

○今後に向けた課題

容器包装廃棄物の分別徹底や集団回収への参加促進。ペットボトルのリサイクルについては、市町村等から指定法人に円滑に引き渡されることが重要。

No17	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)
産業廃棄物排出量	6,664	-	-	-	-	8,387	8,465	8,454	8,632	8,469	-	-	8,514



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 -

達成状況	目標区分
○	↓

○主な取組み実績

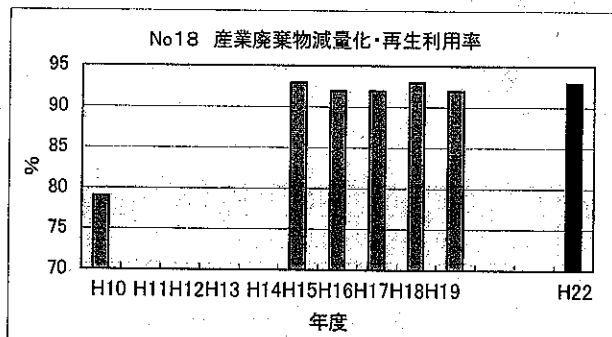
産業廃棄物適正処理推進ガイドを作成し、排出事業者に対し排出抑制等を指導。産廃の排出抑制や再利用の促進による最終処分量の抑制を目的とした産業廃棄物税の導入。

○今後に向けた課題

再使用・再商品化が可能な製品開発の積極的な促進など、製造段階からの発生抑制への取組みの促進。

排出抑制、減量化のための施設整備や再生利用技術の開発等のコストが大きい。

No18	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)
産業廃棄物減量化・再生利用率	79	-	-	-	-	93	92	92	93	92	-	-	93



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 92.9%

達成状況	目標区分
○	↗

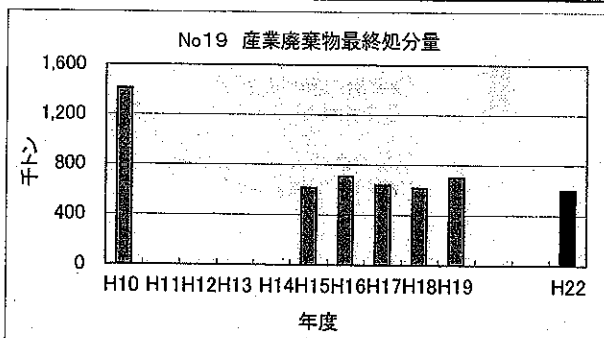
○主な取組み実績

多量排出事業者等に対する処理計画の作成及び実績報告の指導。産業廃棄物税を活用して産業廃棄物の排出抑制や減量化を目的とした施設整備に対する支援(補助)の実施。

○今後に向けた課題

排出抑制、減量化のための施設整備や処理及び再利用技術の開発等のコストが大きい。廃棄物の排出抑制、再生利用に関して、排出事業者の知識や認識が十分でない。

No19	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)
産業廃棄物最終処分量	1,407	-	-	-	-	615	706	637	613	696	-	-	596



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 87.7%

達成状況	目標区分
△	↘

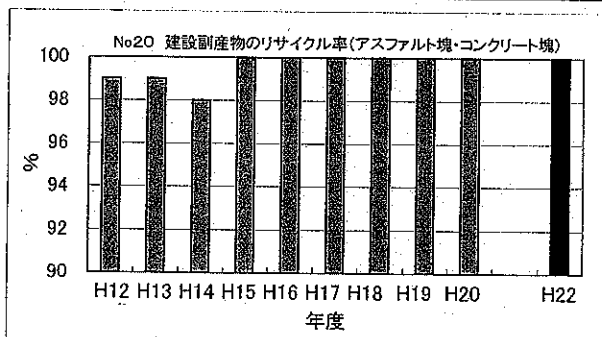
○主な取組み実績

産廃の排出抑制や再利用の促進による最終処分量の抑制を目的とした産業廃棄物税の導入。県外物の搬入に係る事前届出制度などを定めた産業廃棄物条例の制定。

○今後に向けた課題

産業廃棄物の排出抑制、減量化、リサイクルをより一層推進する。

No20	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
建設副産物のリサイクル率(アスファルト塊・コンクリート塊)	99	99	98	100	100	100	100	100	100	-	100	◎	→



○目標の達成状況について

平成20年度末の進捗率 100%

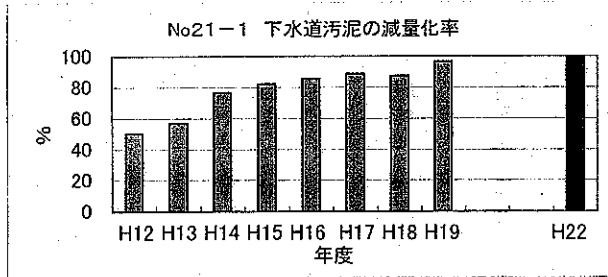
○主な取組み実績

「リサイクル原則化ルール」(H18国土交通省通知)に基づき、建設工事に伴って発生したコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊を廃棄物として工事現場から搬出する場合は、原則再資源化施設へ搬出しリサイクルに努めている。

○今後に向けた課題

収集や運搬の際に法令違反や事故がないよう、周知徹底を図る必要がある。

No21	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
下水道汚泥の減量化率	50.2	56.8	76.6	82.2	85.4	88.6	87.3	96.5	-	-	100	○	↗
下水道汚泥の有効利用率	17.8	15.2	47.1	60.4	66.8	71.0	75.8	74.6	-	-	100	△	↗



○目標の達成状況について

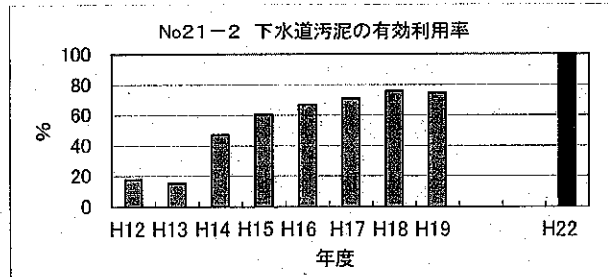
平成19年度末の進捗率 減量化率:93.0%
 平成19年度末の進捗率 有効利用率:69.1%

○主な取組み実績

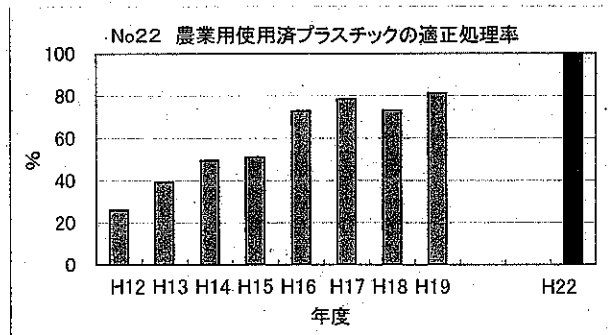
平成14年7月に県中浄化センター溶融施設の稼働により、汚泥の有効利用や減量化が向上した。

○今後に向けた課題

市町村財政状況が厳しい中、現在の汚泥処理状況を踏まえ、市町村等は地域の特性や地理的条件等に応じた適切な処理方法を選択する必要がある。



No22	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
農業用使用済プラスチックの適正処理率	26.0	39.2	49.5	51.1	73.0	78.4	73.2	81.3	-	-	100	○	↗



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 74.7%

○主な取組み実績

適正処理推進のための研修会開催やリサイクルシステム確立のための助成、排出抑制のための生分解性マルチ導入に対する助成

○今後に向けた課題

農業用使用済プラスチックの組織的回収率を高めることと、塩化ビニル系とポリエステル系等の分別収集の徹底及び、長期展張フィルムや生分解性プラスチックの導入促進。

(2) 環境と調和した事業活動の展開

施策の方向

◇あらゆる産業において環境と調和した事業活動を促進します。

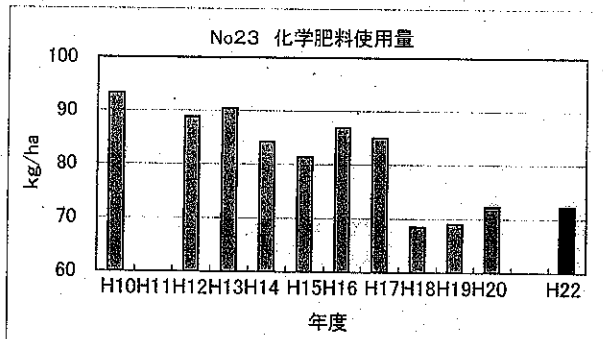
◇環境関連産業の創出・育成を図ります。

◇環境にやさしい、持続性の高い農林水産業生産方式の導入を推進します。

- ① 環境にやさしい事業活動の促進
- ② 環境関連産業の振興
- ③ 持続性の高い農林水産業生産方式等の導入

環境指標

No23	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)
化学肥料使用量	93.3	—	88.8	90.4	84.2	81.4	86.9	85.0	68.4	69.0	72.2	—	72.2



○目標の達成状況について

平成20年度末の進捗率 100%

○主な取組み実績

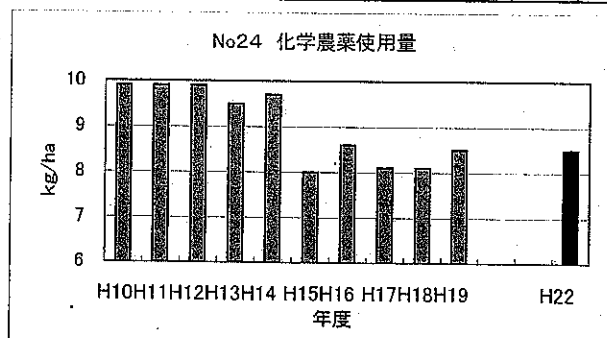
資源循環型農業地域支援センターの設置、たい肥需給計画の策定、品質向上推進マニュアルの作成経費等への助成。畜産農家に対する指導・助

○今後に向けた課題

畜産農家、耕種農家、堆肥センターとの連携を強化することにより、良質堆肥の製造と販売、広域的な供給システムを促進することが必要

達成状況	目標区分
◎	↘

No24	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)
化学農薬使用量	9.9	9.9	9.9	9.5	9.7	8.0	8.6	8.1	8.1	8.5	—	—	8.5



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 100%

○主な取組み実績

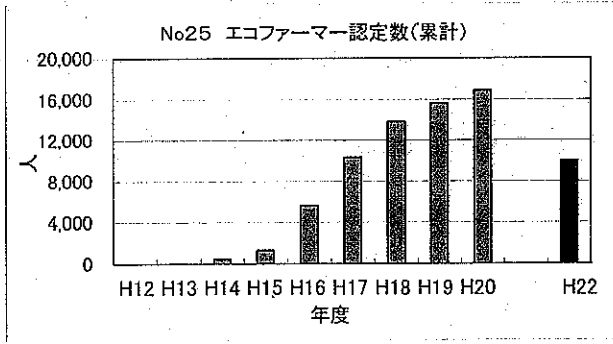
主要農産物における重要病害虫の防除体系の確立、農薬適正使用及び危被害防止に関する研修会の開催。

○今後に向けた課題

残留農薬のポジティブリスト制度への対応強化、農産物のトレーサビリティシステムの対応強化及び監視体制の整備、生物的防除技術等を取り入れた化学農薬低減技術の導入。

達成状況	目標区分
◎	↘

No25	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
エコファーマー認定数(累計)	2	38	446	1,319	5,570	10,309	13,818	15,617	16,881	-	10,000	◎	↗



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 156%

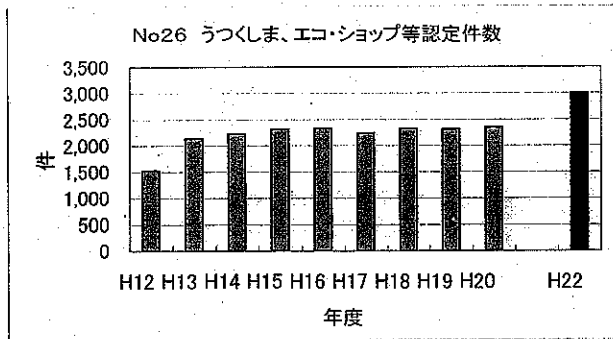
○主な取組み実績

環境にやさしい米づくりの実践に対する助成、技術指導、研修会の開催、販路拡大

○今後に向けた課題

地域ぐるみでの取組み、農産物の付加価値販売との連携、地球温暖化への対応や生産費の低減等への対応、有機質肥料を地域内で容易に入手できる仕組みづくり、消費者や食品関係事業者の理解と参加が重要。

No26	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
うつくしま、エコ・ショップ等認定件数	1,525	2,137	2,225	2,310	2,325	2,238	2,323	2,310	2,350	-	3,000	△	↗



○目標の達成状況について

平成20年度末の進捗率 55.9%

○主な取組み実績

簡易包装やレジ袋削減について環境に優しい事業活動が拡大するの普及啓発活動を実施してきた。

○今後に向けた課題

景気低迷、大型郊外店の進出等により認定小売店等の廃業が見られる。レジ袋有料化などの更なる取組みが重要。エコ・オフィス、エコ・レストランの普及が課題。

(3) 資源・エネルギーの有効利用

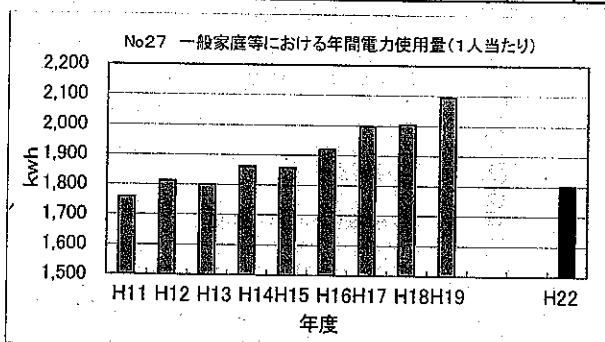
施策の方向

- ◇資源・エネルギーを節約するとともに、リサイクルなどによる有効利用を推進します。
- ◇太陽光発電などの新エネルギーの導入を促進します。

- ① 意識改革の推進
- ② 省資源・省エネルギーの推進
- ③ 資源・エネルギーの再利用等の推進
- ④ 新エネルギーの利用促進

環境指標

No27	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
一般家庭等における年間電力使用量(1人当たり)	1,758	1,812	1,800	1,861	1,857	1,920	1,997	2,004	2,095	-	-	1,800	×	→

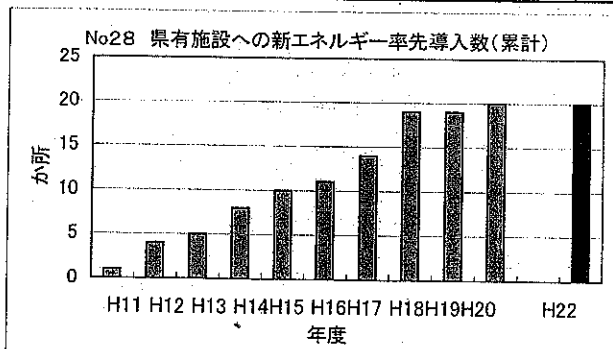


○目標の達成状況について
平成19年度末の進捗率 -
(計画策定時値及び目標値よりも増加している。)

○主な取組み実績
省エネルギー実践のための普及啓発、省エネルギーセミナーの開催、10月に節電に取組む「省エネチャレンジ“ふくしま”」の実施(H19～)

○今後に向けた課題
県民の省エネルギーに対する意識は高まっていると考えられるが、行動に結びつけるためには無理なく実践できる省エネルギー行動を誘発する必要があり、個人の取り組みで可能な省エネルギー活動について、確実に取り組むための意識の啓発が必要である。

No28	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
県有施設への新エネルギー率先導入数(累計)	1	4	5	8	10	11	14	19	19	20	-	20	◎	↗

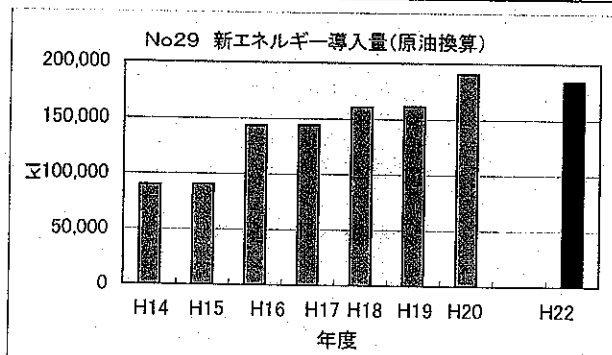


○目標の達成状況について
平成20年度末の進捗率 100%

○主な取組み実績
庁内連絡会議等における働きかけなどを通じて、今年度に導入された1件(農業総合センター:木質ペレットボイラー1基)を含め、これまでに20件の新エネルギーが県有施設に導入された。

○今後に向けた課題
県の財政状況から、県有施設への新エネルギーの設備導入は困難さが増しているが、地球温暖化防止に積極的な県の姿勢を示すため、施設の新設・改修などの機会があれば、極力導入に努めていく必要がある。

No29	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
新エネルギー導入量(原油換算)	89,996	90,421	143,726	144,300	160,604	161,456	190,343	-	184,002	◎	↗



○目標の達成状況について
平成20年末の進捗率 103.4%

○主な取組み実績
太陽光発電などの新エネルギー導入促進のため、上乘せ補助や普及啓発事業への補助を実施。

○今後に向けた課題
太陽光発電や太陽熱利用など種類別には目標達成が困難なものもある。新たに新エネルギーに加えられた小水力発電及び地熱発電のほか、雪氷冷熱や温度差エネルギーなど、まだ県内で普及が進んでいない新エネルギーの普及拡大に取り組んでいく必要がある。

(4) ダイオキシン類・環境ホルモン等化学物質対策の推進

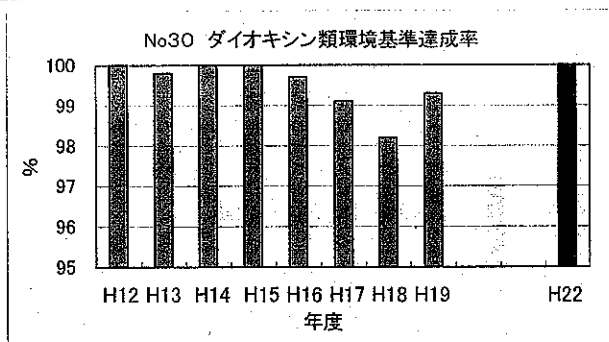
施策の方向

- ◇ダイオキシン類、環境ホルモン等の有害化学物質の監視・測定を行います。
- ◇ダイオキシン類の発生抑制対策により、環境基準を遵守します。
- ◇工場・事業場等の化学物質の適正管理を促進し、環境汚染を未然に防止します。
- ◇化学物質に関する理解や適切に対処するための情報提供を行います。

- ① ダイオキシン類・環境ホルモン等対策の推進
- ② 化学物質の適正管理の促進
- ③ 情報提供

環境指標

No30	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
ダイオキシン類環境基準達成率	100	99.8	100	100	99.7	99.1	98.2	99.3	-	-	100	△	→



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 -

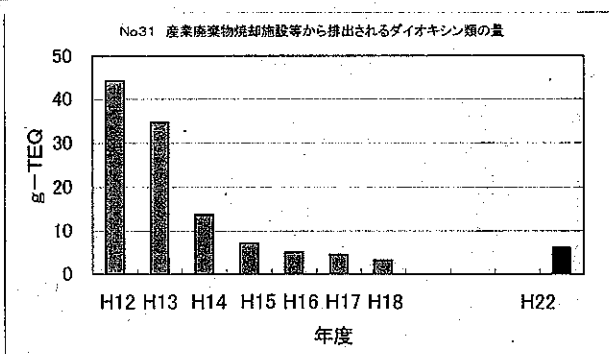
○主な取組み実績

モニタリング調査の実施、特定施設を設置する工場等に対する立入検査を実施し、削減対策を指導。また、土壌汚染が判明した大熊町について土壌汚染対策を実施。

○今後に向けた課題

本県における削減状況は、国が策定した「我が国における事業活動に伴い排出されるダイオキシン類の量を削減するための計画」における削減目標を上回るペースで推移しているが、引き続き関係事業者に対する立入検査や指導を行い、環境基準の達成を図る必要がある。

No31	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
産業廃棄物焼却施設等から排出されるダイオキシン類の量	44.3	34.6	13.6	7.1	5.0	4.4	3.1	-	-	-	6.0	◎	↘



○目標の達成状況について

平成18年度末の進捗率 -

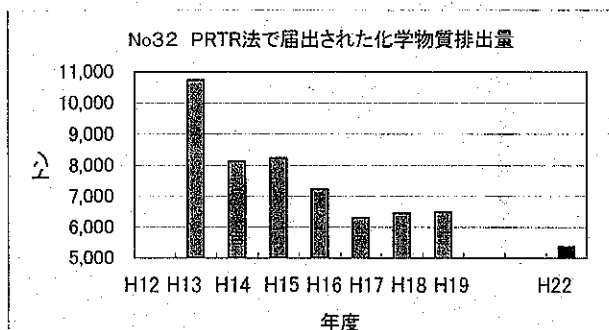
○主な取組み実績

ダイオキシン類対策特別措置法に定める特定施設を設置する工場・事業場等に対する立入検査等を実施し、ダイオキシン類の削減対策を指導した。

○今後に向けた課題

本県における削減状況は、国が策定した「我が国における事業活動に伴い排出されるダイオキシン類の量を削減するための計画」における削減目標を上回るペースで推移しているが、引き続き関係事業者に対する立入検査や指導を行う必要がある。

No32	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
PRTR法で届出された化学物質排出量	-	10,732	8,123	8,235	7,225	6,305	6,445	6,484	-	-	5,366	△	↘



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 79.2%

○主な取組み実績

PRTR法に基づく化学物質の排出量を把握するとともに、事業計画に基づき、リスクコミュニケーションを普及啓発するための事例発表会等を開催した。

○今後に向けた課題

社会全体が、各企業のCSR活動に大きな関心を寄せており、また、安全・安心を強く求めている背景を十分に勘案した施策を継続的に展開し、各事業者の自主的取組みによる環境負荷の低減化を図る必要がある。

(5) 大気、水、土壌等の保全対策の推進

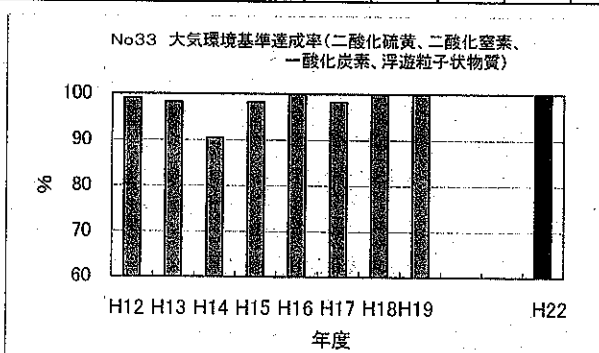
施策の方向

- ◇きれいな空気のなかで健康な生活を営むための環境を守ります。
- ◇豊かな水環境を守るとともに、清らかで安全な水を確保します。
- ◇静かで安心して暮らせる環境を守ります。

- ① 大気保全対策の推進
- ② 水質保全対策の推進
- ③ 土壌汚染等対策の推進
- ④ 騒音、振動、悪臭対策の推進
- ⑤ 鉱害防止対策等の推進

環境指標

No33	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
大気環境基準達成率(二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質)	99.1	98.2	90.4	98.2	100	98.2	100	100	—	—	100	◎	↗

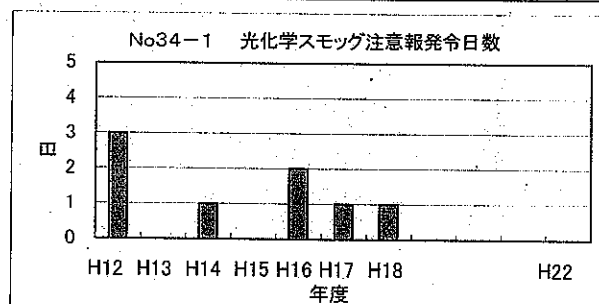


○目標の達成状況について
平成19年度末の進捗率 100%

○主な取り組み実績
ばい煙、粉じん発生施設への立入調査及び煙道排ガス調査を行い、大気汚染防止法で定める責務の遵守について指導及び自動車排ガス低減化のための普及啓発事業を行った。

○今後に向けた課題
大気環境の状況を効率的かつ的確に把握するため、H20年1月に策定した「福島県大気常時監視測定局配置計画」に基づき、測定局の新設・移設等を適正に進める必要がある。

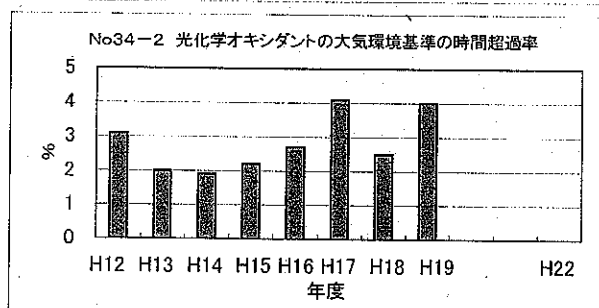
No34	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
光化学スモッグ注意報発令日数	3	0	1	0	2	1	1	0	—	—	0	◎	↘
光化学オキシダントの大気環境基準時間超過率	3.1	2.0	1.9	2.2	2.7	4.1	2.5	4.0	—	—	—		



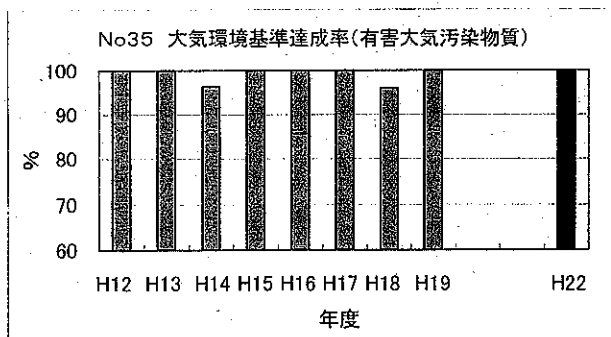
○目標の達成状況について
目標設定なし

○主な取り組み実績
光化学オキシダントは気象条件に大きく影響され、中国からの移流も原因の一つとしてあげられているところであるが、今後の経済状況の変動等にも大きく依存することが予測される。

○今後に向けた課題
光化学オキシダントは広域的な汚染物質であり、全国的にも環境基準の達成率が低く(平均0.3%程度)、目標の達成は厳しい状況にあるが、種々の発生源対策等を積極的に進める必要がある。光化学オキシダントによる広域的汚染状況を的確に把握するため、H20年1月に策定した「福島県大気常時監視測定局配置計画」に基づき、測定局の新設・移設等を適切に進める必要がある。



No35	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
大気環境基準達成率(有害大気汚染物質)	100	100	96.4	100	100	100	96.0	100	-	-	100	◎	→



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 100%

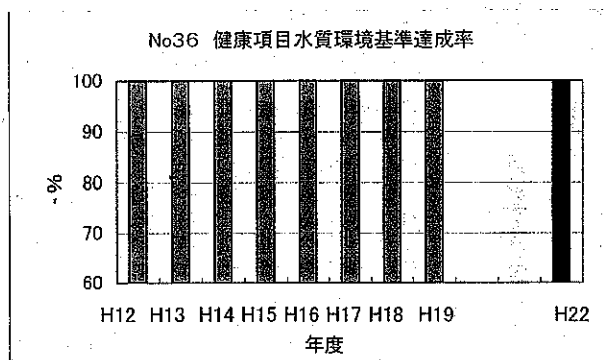
○主な取組み実績

ばい煙、粉じん発生施設への立入調査及び煙道排ガス調査を行い、大気汚染防止法で定める責務の遵守についての指導及び環境基準超過の原因となった発生源事業所の指導を行った。

○今後に向けた課題

有害大気汚染物質による大気汚染状況の把握や有害大気汚染物質に関する有害性情報の収集が必要である。

No36	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
健康項目水質環境基準達成率	100	100	100	100	100	100	100	100	-	-	100	◎	→



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 100%

○主な取組み実績

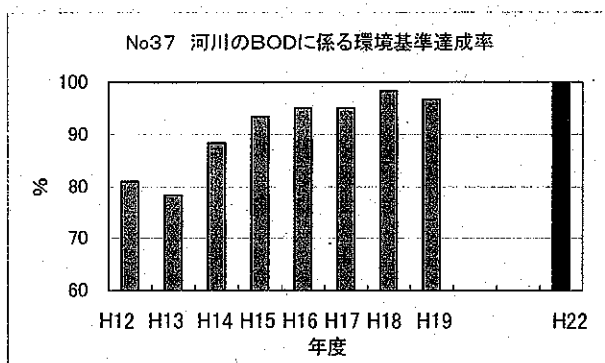
・水質測定計画に基づき公共用水域の水質調査を実施するとともに、水質環境基準の類型指定の見直し、また、新たに水生生物に係る水質環境基準の類型指定を行った。

・水質汚濁源である工場・事業場等に対して排水基準が遵守されるよう監視・指導を行うとともに、生活排水の適正処理について、普及啓発を行った。

○今後に向けた課題

実績の維持

No37	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
河川のBODに係る環境基準達成率	81.0	78.3	88.3	93.3	95.0	95.0	98.3	96.7	-	-	100	○	↗



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 82.6%

○主な取組み実績

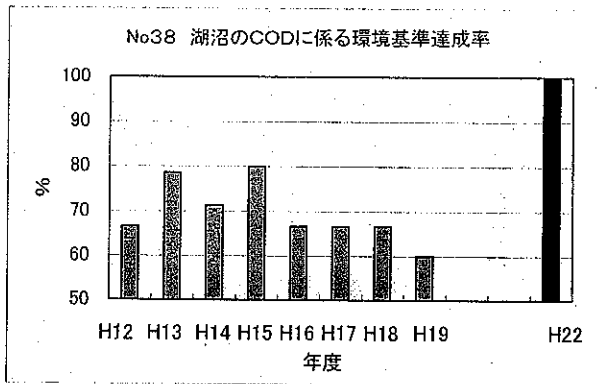
・水質測定計画に基づき公共用水域の水質調査を実施するとともに、水質環境基準の類型指定の見直し、また、新たに水生生物に係る水質環境基準の類型指定を行った。

・水質汚濁源である工場・事業場等に対して排水基準が遵守されるよう監視・指導を行うとともに、生活排水の適正処理について、普及啓発を行った。

○今後に向けた課題

・公共用水域の水質環境基準を達成するために、工場・事業場等の水質汚濁源に対する対策と併せて、生活排水における汚濁低減の対策も重要である。

No38	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
湖沼のCODに係る環境基準達成率	66.7	78.6	71.4	80.0	66.7	66.7	66.7	60.0	—	—	100	×	↗



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 ー

○主な取組み実績

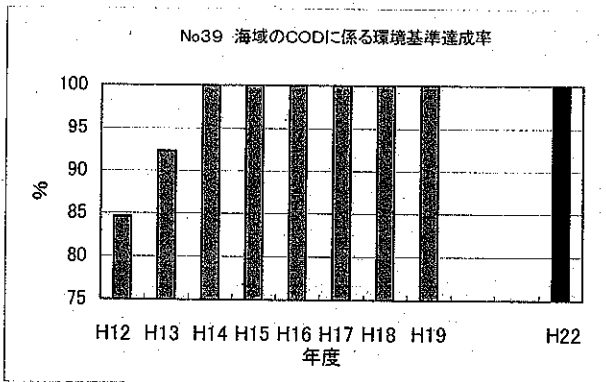
・水質測定計画に基づき公共用水域の水質調査を実施するとともに、水質環境基準の類型指定の見直し、また、新たに水生生物に係る水質環境基準の類型指定を行った。

・水質汚濁源である工場・事業場等に対して排水基準が遵守されるよう監視・指導を行うとともに、生活排水の適正処理について、普及啓発を行った。

○今後に向けた課題

湖沼等の閉鎖性水域では、流入水の汚濁負荷低減対策が重要であるが、自然由来の汚濁や内部生産等の影響も大きく、水質改善はなかなか難しい。

No39	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
海域のCODに係る環境基準達成率	84.6	92.3	100	100	100	100	100	100	—	—	100	◎	↗



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 100%

○主な取組み実績

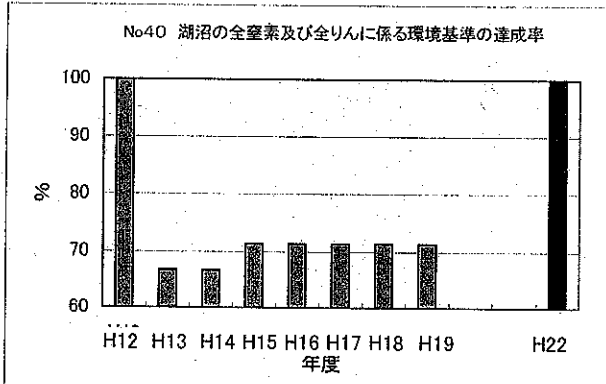
・水質測定計画に基づき公共用水域の水質調査を実施するとともに、水質環境基準の類型指定の見直し、また、新たに水生生物に係る水質環境基準の類型指定を行った。

・水質汚濁源である工場・事業場等に対して排水基準が遵守されるよう監視・指導を行うとともに、生活排水の適正処理について、普及啓発を行った。

○今後に向けた課題

実績の維持

No40	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
湖沼の全窒素及び全りんに係る環境基準の達成率	100	66.7	66.7	71.4	71.4	71.4	71.4	71.4	—	—	100	×	→



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 71.4%

○主な取組み実績

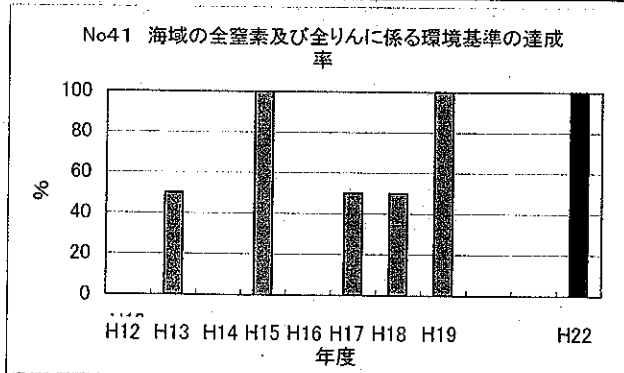
・水質測定計画に基づき公共用水域の水質調査を実施するとともに、水質環境基準の類型指定の見直し、また、新たに水生生物に係る水質環境基準の類型指定を行った。

・水質汚濁源である工場・事業場等に対して排水基準が遵守されるよう監視・指導を行うとともに、生活排水の適正処理について、普及啓発を行った。

○今後に向けた課題

湖沼等の閉鎖性水域では、流入水の汚濁負荷低減対策が重要であるが、自然由来の汚濁や内部生産等の影響も大きく、水質改善はなかなか難しい。

No41	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
海域の全窒素及び全りんに係る環境基準の達成率	0	50	0	100	0	50	50	100	—	—	100	◎	↗



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 100%

○主な取組み実績

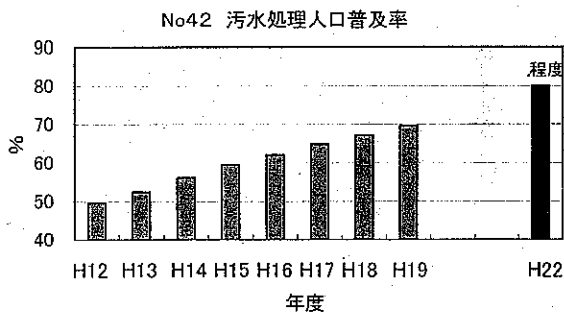
・水質測定計画に基づき公共用水域の水質調査を実施するとともに、水質環境基準の類型指定の見直し、また、新たに水生生物に係る水質環境基準の類型指定を行った。

・水質汚濁源である工場・事業場等に対して排水基準が遵守されるよう監視・指導を行うとともに、生活排水の適正処理について、普及啓発を行った。

○今後に向けた課題

実績の維持

No42	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
汚水処理人口普及率	49.6	52.3	56.0	59.5	62.1	64.8	67.2	69.6	—	—	80 程度	○	↗



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 65.8%

○主な取組み実績

平成16年度に「福島県全県域下水道化構想」の見直しを実施。

○今後に向けた課題

・下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽等の汚水処理については、各汚水処理施設の特性を踏まえ、市町村等は地域の実情に応じた適切な整備手法を選択する必要がある。

(6) 猪苗代湖及び裏磐梯湖沼の水環境保全

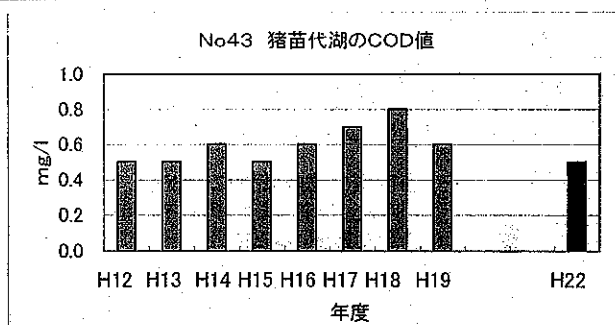
施策の方向

- ◇水環境悪化を未然に防止し、紺碧の猪苗代湖を将来の世代にわたって継承します。
◇水環境悪化を未然に防止し、裏磐梯の清らかな青い湖沼群を守ります。

- ① 水環境保全対策の推進
- ② 普及啓発及び調査研究の推進

環境指標

No43	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
猪苗代湖のCOD値	0.5	0.5	0.6	0.5	0.6	0.7	0.8	0.6	—	—	0.5	△	→



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 —

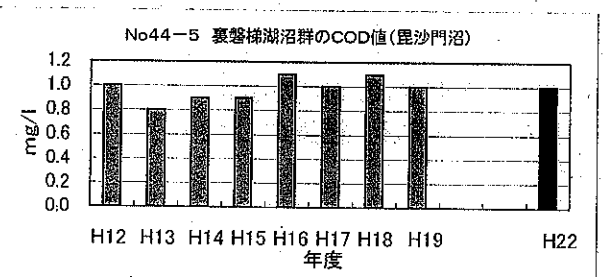
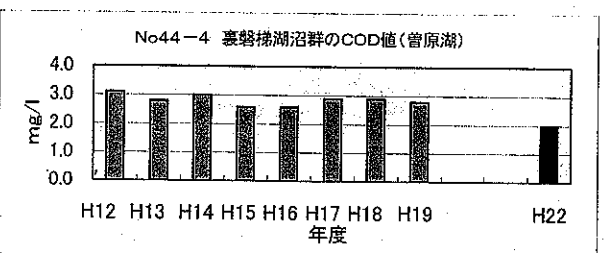
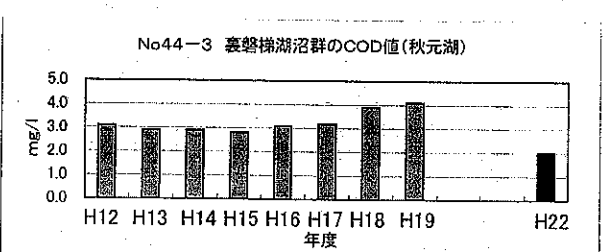
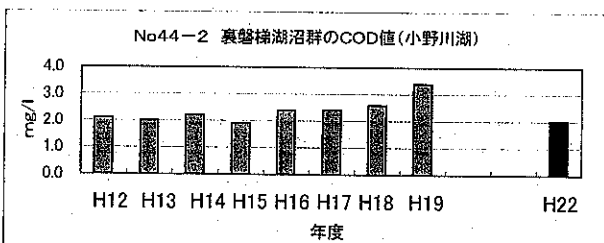
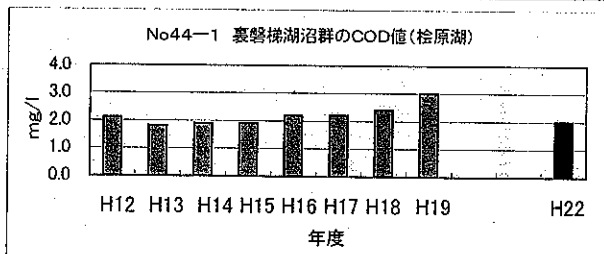
○主な取組み実績

・「猪苗代湖及び裏磐梯湖沼群の水環境の保全に関する条例」並びにその条例の規定により策定した「猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画」に基づき、生活排水対策、工場・事業場の排水対策、水環境に配慮した農業の推進等の水環境保全対策を実施している。
・水環境保全区域の管理として、地域住民や関係機関等との連携の下、ヨシの刈り取りやその堆肥化、ごみ撤去作業を実施している。
・「猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会」の活動により、水環境保全に関する意識高揚を図るための啓発等を行うとともに、「きらめく水のふるさと磐梯」湖美来基金により、地域での水環境保全活動する団体・個人に対して支援している。(H15～H20 68団体 11,159千円)
・猪苗代湖におけるpH上昇等の水質変動メカニズムを把握するためのモニタリング調査や大腸菌群数等の水質調査を実施している。

○今後に向けた課題

猪苗代湖においては、湖水の中性化の進行に伴い、水質の自然浄化機能が低下しつつあり水質の悪化が懸念される。このため、猪苗代湖水環境保全条例等に基づき、より一層の水環境保全対策を推進する必要がある。

No44	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
裏磐梯湖沼群のCOD値(桧原湖)	2.1	1.8	1.9	1.9	2.2	2.2	2.4	3.0	-	-	2.0	×	▲
裏磐梯湖沼群のCOD値(小野川湖)	2.1	2.0	2.2	1.9	2.4	2.4	2.6	3.4	-	-	2.0	×	▲
裏磐梯湖沼群のCOD値(秋元湖)	3.1	2.9	2.9	2.8	3.1	3.2	3.9	4.1	-	-	2.0	×	▲
裏磐梯湖沼群のCOD値(菅原湖)	3.1	2.8	3.0	2.6	2.6	2.9	2.9	2.8	-	-	2.0	△	▲
裏磐梯湖沼群のCOD値(毘沙門沼)	1.0	0.8	0.9	0.9	1.1	1.0	1.1	1.0	-	-	1.0	◎	→



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 —

○主な取組み実績

裏磐梯湖沼群の桧原湖、小野川湖、秋元湖においては、COD値が近年上昇する傾向がみられ水質の悪化が懸念される。このため、猪苗代湖水環境保全条例等に基づき、より強力な水環境保全対策を推進する必要がある。(H15～H20 のべ68団体のべ11,159千円)

○今後に向けた課題

今まで、猪苗代湖水環境保全条例等に基づき、各種の水環境保全対策を実施してきたが、桧原湖、小野川湖、秋元湖のCOD値は近年上昇する傾向がみられ、水質の悪化が懸念されることから、より一層の水環境保全対策を推進する必要がある。

(7) 環境負荷の少ない交通への取組み

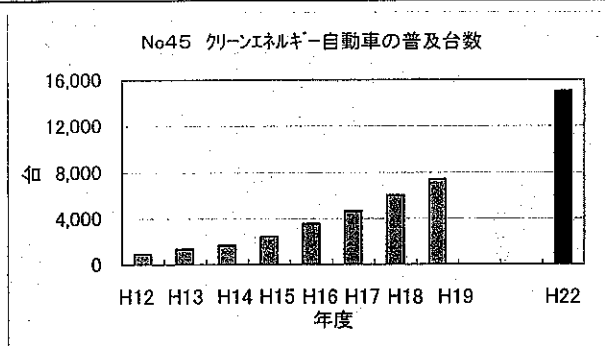
施策の方向

- ◇県民一人ひとりが交通による環境負荷の低減に取り組みます。
- ◇低公害車の導入を促進します。
- ◇環境に配慮した交通・物流システムの整備を進めます。

- ① 各主体の取組みの促進
- ② 自動車排出ガス対策の推進
- ③ 低公害車の導入の促進
- ④ 環境に配慮した道路整備や物流の促進

環境指標

No45	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
クリーンエネルギー自動車の普及台	912	1,361	1,677	2,433	3,566	4,617	6,016	7,402	—	—	15,000	○	↗



○目標の達成状況について

平成19年度末の進捗率 46.1%

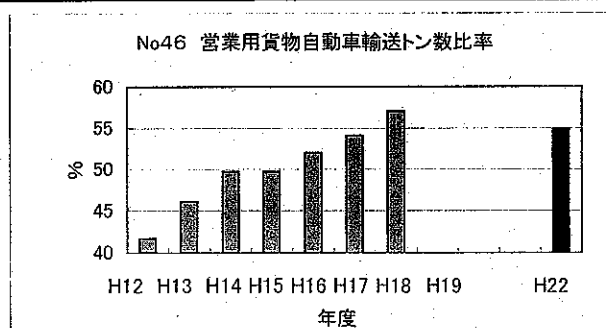
○主な取組み実績

NEDOの補助金を活用した県公用車へのクリーンエネルギー自動車の導入(平成14～18年度 CNG 5台、ハイブリッド車 22台)2 環境センターに導入した電気自動車の維持管理3 環境創造資金融資事業4 ホームページによる情報提供5 「もったいない福島2006」、「ふくしま環境・エネルギーフェア2008」等のイベントにおけるクリーンエネルギー自動車の展示

○今後に向けた課題

クリーンエネルギー自動車は他の自動車に比べて割高であるため、引き続き、そのメリットである燃費性能や、二酸化炭素排出量の削減、税のグリーン化などについてあらゆる場を利用して、アピールする必要がある。

No46	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
営業用貨物自動車輸送トン数比率	41.7	46.1	49.7	49.7	52.0	54.1	57.0	—	—	—	55	◎	↗



○目標の達成状況について

平成18年度末の進捗率 115%

○主な取組み実績

水質測定計画に基づき、公共用水域の水質調査を実施した。新たに水生生物に係る水質環境基準の種類指定を行った。工場・事業場において排水基準が遵守されるよう監視・指導を行った。生活排水の適正処理について、普及啓発等を行った。

○今後に向けた課題

引き続き県内企業の物流に関する実態及びニーズ把握に努めるとともに、郡山西部第二工業団地において開催した「グリーン物流推進研究会」の成果を広く周知し、他地域での研究会設立につなげる。なお、他地域における研究会では、異なるテーマの検討に取り組み、新たなモデルケースとなるよう調整していく必要がある。

(8) 原子力発電所及び周辺地域の安全確保

施策の方向

- ◇原子力発電所への立入調査や適切な措置を求め、地域住民の安全を確保します。
- ◇環境放射能の監視・測定を行い、広く情報を県民に提供します。

- ① 「原子力発電所周辺地域の安全確保に関する協定」の適切な運用
- ② 発電所周辺地域等における環境放射能の監視・測定、結果の公表
- ③ 環境放射能測定結果等に関する情報提供
- ④ 安全確保対策の充実

3 地球環境保全への積極的な取組み

(1) 地球温暖化対策の推進

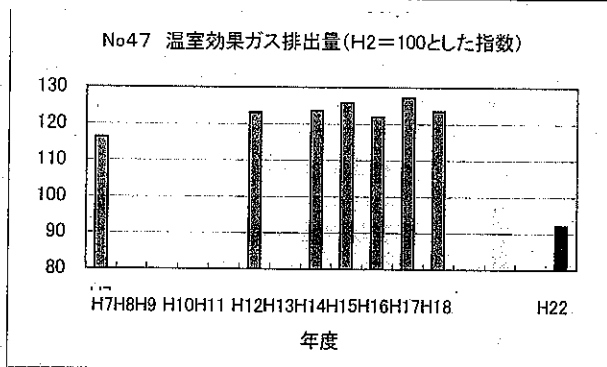
施策の方向

- ◇県民一人ひとりが地球環境を守るための積極的な行動をこれまで以上に推進します。
- ◇温室効果ガスの排出状況や各主体の取組状況を把握し、効果的な取組みを推進します。

- ① 県民・事業者への情報提供と普及啓発
- ② 地球温暖化対策の多様な取組み

環境指標

No47	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)
温室効果ガス排出量 (H2=100とした指数)	116.4	—	—	—	—	123.1	—	123.7	125.8	122.0	127.2	123.5	—	—	—	92



○目標の達成状況について

平成18年度末の進捗率 —

○主な取組み実績

推進計画改定(H18.3)、環境・エネルギー戦略策定(H20.2)、推進本部設置(H20.2)、県民会議設置(H20.5)、環境・エネルギーフェア開催(H20.12)、福島議定書事業(H18～)

○今後に向けた課題

温暖化対策は喫緊の課題であることから、より実効性の高い取組を県民・事業者等県民総参加で取り組む必要がある。

達成状況	目標区分
×	↘

(2) オゾン層保護・酸性雨対策の推進

施策の方向

- ◇オゾン層保護のためにフロン等の適正回収・破壊を進めます。
- ◇酸性雨モニタリング調査により、酸性雨の実態把握に努めます。

- ① オゾン層保護の推進
- ② 酸性雨対策の推進

(3) アジェンダ21ふくしまの推進

施策の方向

- ◇県民、事業者、行政の各主体の自主的かつ連携した環境保全活動を促進します。
- ◇「アジェンダ21ふくしま」を見直し、取組みの一層の充実を図ります。

- ① アジェンダ21ふくしまの一層の推進
- ② アジェンダ21ふくしまの充実

4 環境教育・学習の推進

(1) 多様な場における環境教育・学習の充実

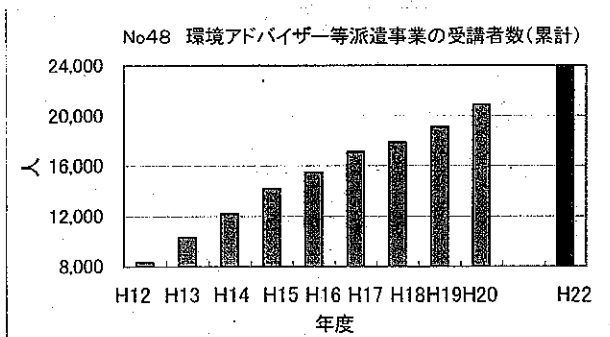
施策の方向

- ◇あらゆる場、あらゆる年齢層における環境教育・学習機会の充実を図ります。
- ◇子どもたちの環境理解と実践行動を促進します。

- ① 環境教育・学習の機会の拡大
- ② 体験型・実践型の環境教育・学習の推進
- ③ 自主的な環境学習活動への取組みの支援

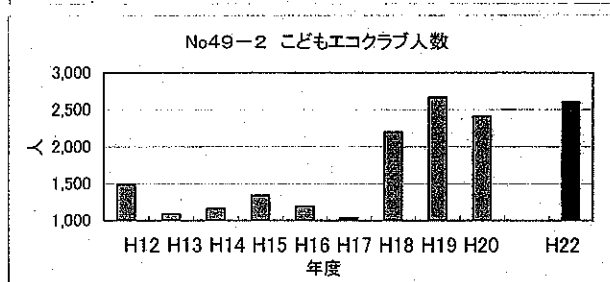
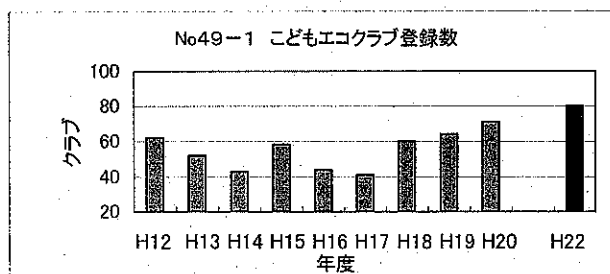
環境指標

No48	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
環境アドバイザー等派遣事業の受講者数(累計)	8,315	10,309	12,204	14,204	15,493	17,083	17,825	19,097	20,860	—	24,000	○	↗



○目標の達成状況について
 平成20年度末の進捗率 80.0%
 ○主な取組み実績
 環境アドバイザー等派遣事業
 ○今後に向けた課題
 自主的な学習の機会の増加を図る必要がある。

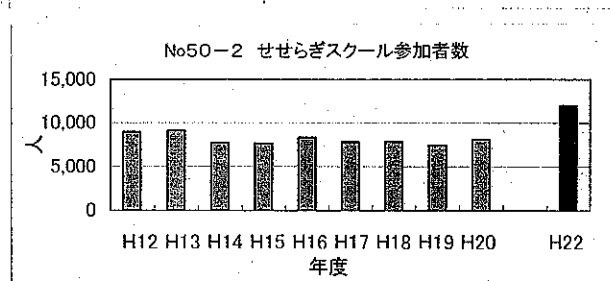
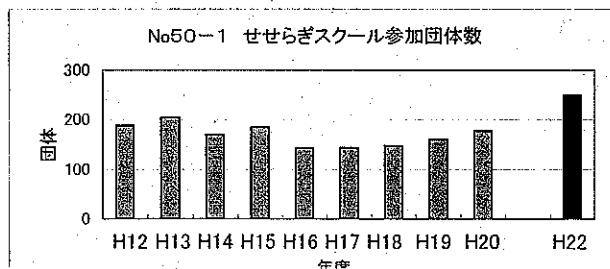
No49	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
こどもエコクラブ登録数	62	52	43	58	44	41	60	64	71	—	80	○	↗
こどもエコクラブ人数	1,486	1,090	1,161	1,337	1,193	1,036	2,195	2,660	2,405	—	2,600	○	↗



○目標の達成状況について
 平成20年度末の進捗率 クラブ数:50.0%
 平成20年度末の進捗率 人数:82.5%
 ○主な取組み実績
 小中高等学校や公民館に参加を呼びかけたほか、各種の指導者養成研修や県民講座、イベント等でPRした。

○今後に向けた課題
 少子化による学校での児童・生徒数の減少により、参加者数の伸び悩みが想定される。

No50	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
せせらぎスクール参加団体数	188	204	170	185	143	144	148	160	177	—	250	△	↗
せせらぎスクール参加者数	8,927	9,084	7,712	7,624	8,286	7,769	7,802	7,420	8,071	—	12,000	△	↗



○目標の達成状況について
 平成20年度末の進捗率 団体数:—
 平成20年度末の進捗率 人数:—
 (参加者がやや減少しているが、本県のせせらぎスクール参加者数は平成9年度より12年連続全国1位である。)

○主な取組み実績
 小中高等学校や公民館に参加を呼びかけたほか、各種の指導者養成研修や県民講座、イベント等でPRした。

○今後に向けた課題
 少子化による学校での児童・生徒数の減少により、延べ参加者数は伸び悩んでいる。

(2) 学校、地域等における指導者の育成

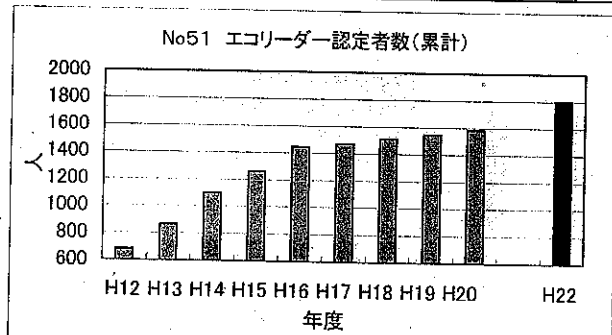
施策の方向

◇学校や地域における環境教育：学習の指導者を養成し、その活用と交流を進めます。

- ① 指導者の育成
- ② 指導者の活用と交流促進

環境指標

No51	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
エコリーダー認定者数(累計)	680	865	1,097	1,260	1,446	1,470	1,511	1,547	1,583	-	1,800	○	↗



○目標の達成状況について

平成20年度の進捗率 80.6%

○主な取組み実績

- ・エコリーダー養成講座の開催
- ・エコリーダーステップアップ講座の開催
- ・エコリーダー交流会の開催

○今後に向けた課題

住民の環境問題の意識も向上してきたが、未だ環境問題の意識の低い層に対する啓発が必要である。

(3) 環境教育・学習基盤の充実

施策の方向

◇県民一人ひとりの環境理解と実践活動を促進するため、体系的な環境教育・学習を推進します。

◇環境教育・学習のための情報提供及び教材の充実を図ります。

- ① 体系的な環境教育・学習の推進
- ② 環境教育・学習に関する情報提供の充実
- ③ 環境学習用教材等の充実

5 参加と連携に基づく環境ネットワーク社会の構築

(1) 各主体の自発的な活動の促進と連携

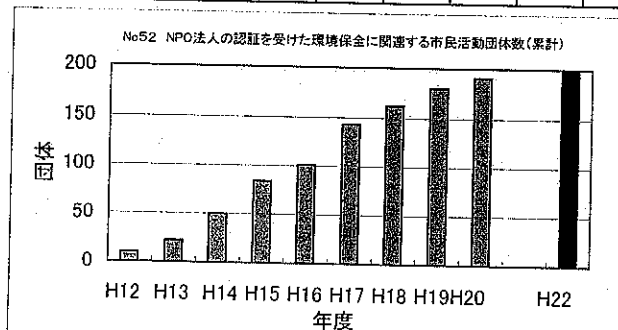
施策の方向

◇県民、事業者及び行政の自発的かつ連携した環境保全活動を促進します。

- ① 自発的な環境保全活動の促進
- ② 環境保全活動に当たっての連携の促進

環境指標

No52	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
NPO法人の認証を受けた環境保全に関連する市民活動団体数(累計)	10	22	50	84	101	143	162	180	191	-	200	○	↗



○目標の達成状況について

平成20年度末の進捗率 95.3%

○主な取組み実績

自主的な環境保全活動を促進するため、人材育成事業などの各種事業を実施した。

○今後に向けた課題

一過性でなく継続した取組みが重要である。

(2) 環境に配慮した消費活動の促進

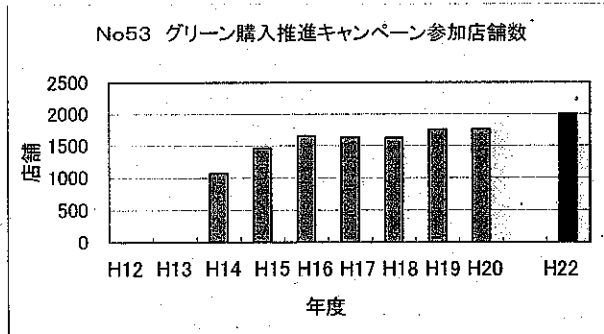
施策の方向

◇グリーン購入やエコショッピングを普及し、環境に配慮した消費活動を促進します。

- ① グリーン購入の促進
- ② エコショッピングの促進

環境指標

No53	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
グリーン購入推進キャンペーン参加店舗数	-	-	1,066	1,461	1,648	1,625	1,616	1,750	1,751	-	2,000	△	↗



○目標の達成状況について

平成20年度の進捗率 73.3%

○主な取組み実績

- ・環境にやさしい買い物(グリーン購入)推進キャンペーン事業
- ・うつくしま、エコ・ショップ等認定事業

○今後に向けた課題

循環型社会形成に向けて、環境に配慮した消費行動を一層推進するために、さらに住民の意識の高揚を図るとともに、必要な情報提供や知識の普及啓発が課題である。

(3) 環境マネジメント等の普及

施策の方向

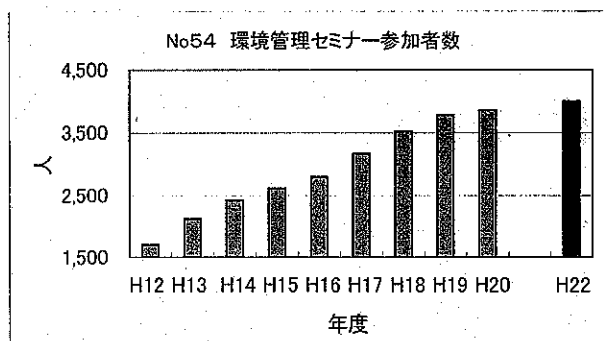
◇環境マネジメントシステムを普及し、事業者による自主的な環境保全活動を促進します。

◇家庭における環境マネジメントシステムである「環境家計簿」の普及を図ります。

- ① 事業者による自主的な環境保全活動の促進
- ② 日常生活における自主的な環境負荷低減のための行動の促進

環境指標

No54	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
環境管理セミナー参加者数(累計)	1,703	2,123	2,423	2,610	2,794	3,163	3,520	3,782	3,861	-	4,000	○	↗



○目標の達成状況について

平成20年度末の進捗率 93.9%

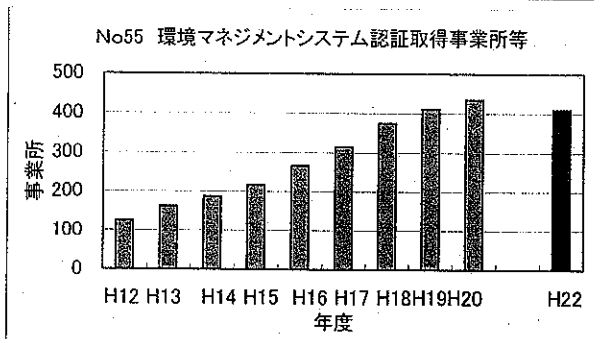
○主な取組み実績

- ・環境管理セミナーの開催・エコアクション21説明・相談会の開催

○今後に向けた課題

中小企業でも比較的取得しやすいエコアクション21などの積極的な普及啓発

No55	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	達成状況	目標区分
環境マネジメントシステム認証取得事業所等	125	162	187	216	266	315	375	411	435	-	410	◎	↗



○目標の達成状況について

平成20年度末の進捗率 108.8%

○主な取組み実績

- ・環境管理セミナーの開催・エコアクション21説明・相談会の開催

○今後に向けた課題

- ・中小企業でも比較的取得しやすいエコアクション21などの積極的な普及啓発

(4) 県の事業者・消費者としての環境保全に向けた取組みの推進

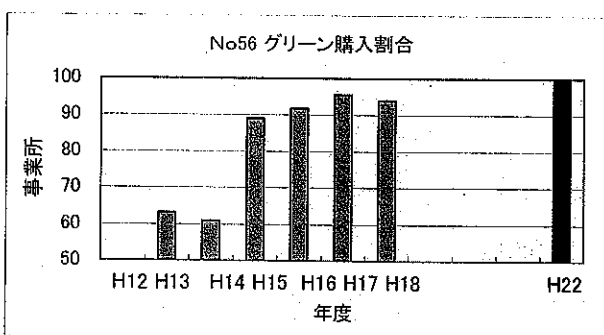
施策の方向

◇県自らの、一事業者、一消費者として環境保全に向けた取組みを進めます。

① 県の事業者・消費者としての環境保全に向けた取組みの率先実行

環境指標

No56	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(目標)	達成状況	目標区分
グリーン購入割合	0	63.2	61.0	89.0	91.8	95.6	94.1	※	※	-	100	◎	↗



※19・20年度は古紙偽装問題のため数字がとれない。

○目標の達成状況について

平成18年度末の進捗率 94.1%

○主な取組み実績

- ・ふくしまエコオフィス推進事業

○今後に向けた課題

- ・ISO14001の認証終了後の新たな「ふくしまエコオフィス実践計画」の策定について検討する必要がある。

(5) 県域を越えたネットワークによる取組みの推進

施策の方向

◇広域的な環境問題の解決に向けて、県域を越えた連携・協力を進めます。

- ① 行政区域を越えた広域的な生活圏域での取組みの推進
- ② 国及び関係地方公共団体等と協力・連携した取組みの推進

(6) 国際的な取組みの推進

施策の方向

◇環境問題の解決のために国際的な交流、協力を図ります。

- ① 研修生の受け入れなどの技術・人事交流
- ② 共通の環境問題に関する交流、協力

6 共通的・基盤的な施策の推進

(1) 環境配慮の推進・普及

- ① 環境影響評価制度の適切な運用
- ② 環境影響評価制度の充実
- ③ 各種事業における環境配慮の推進・普及

(2) 環境と調和のとれた土地利用の推進

- ① 環境と調和した土地利用に関する理念の土地利用計画への反映
- ② 森林・農地の適正な管理
- ③ 様々な制度による環境と調和した土地利用の誘導

(3) 環境に配慮したゆとりある生活空間の形成

- ① 美しい生活空間の形成
- ② 環境美化の促進

(4) 総合的な調査研究、監視体制の整備

- ① 調査研究の推進
- ② 県内外の研究機関との連携の強化
- ③ 監視体制の充実等

(5) 環境保全に関する情報の収集と提供

- ① 環境情報の体系的な整備
- ② 環境情報の種々のメディアによる提供

(6) 各種政策的手法の活用

- ① 環境負荷の低減のための融資制度
- ② 環境保全のための施設等の整備のための助成
- ③ 「福島県環境保全基金」の円滑な運用と同基金による事業の充実
- ④ 各種手法の活用

(7) 環境汚染防止体制

- ① 公害防止計画の推進
- ② 公害紛争処理法に基づく、公害紛争の迅速かつ適切な解決
- ③ 地域住民の公害等に関する苦情に対する適切な対応
- ④ 被害者救済